

びん ヨノ リひ

自らを由とする
ひとたちへ贈る
極私的な旅の記



ソノひびヨリ
2025年 第十九号 <秋・冬>

発行元
たびたびまたたびプロジェクト
〒530-0041 大阪市北区天神橋一丁目18-27
Tel.06-6351-3474 Fax.06-6351-9364
発行日 2021年1月5日（季刊）

企画 たびたびまたたびプロジェクト編集委員会
制作 株式会社アートグローバルファン

WEB <https://sonohibiyori.net/>
<https://www.instagram.com/sonohibiyori>
<https://twitter.com/sonohibiyori>



ソノひびヨリ EXPO 2025 大阪・関西万国博覧会「並ばない万博を体現する旅」
その石川 「スロートラベル 島めぐりフェリーで行こう！」カベルナリア吉田
「合」著・いちご「あまのこ」 一四〇献目から一四五献目まで
ソノひびヨリ 大阪府河内長野市「南大阪の奥座敷、文化財の酒蔵でいただく天空ランチ」
「写して候・寄つて候」天皇御隠居の旅 天皇家・外伝編
昭和ガラクタノスタルジー「家のじゃまけモノ」
ソノひびヨリ 大阪府堺市「古代、中世、幕末、近代のメルティングポット堺へ」

ソノビヨリひ

A journey that embodies
a free Expo

2025
Sep. 6 day

第四〇話 EXPO 2025 大阪・関西万博覧会

『並ばない万博を体現する旅』

並ばないで万博を楽しむ方法?! それは簡単!

六月上旬にやっと「EXPO 2025 大阪・関西万博覧会」に行けることになった! この万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」、そして新しい試みで「並ばない万博」を標榜しています。そう! 今回の旅のテーマは「決して並ばず万博を楽しむ」を実現する旅なのです。

会場に向かう大阪メトロ中央線は、夕方入場(夜間券)なのにすし詰め状態・・・。だけど車内はお祭りムード、赤と青でコーディネートした人やミヤクミヤクのマスコットキーホルダーをつけたインバンド客、ミヤクミヤクぬいぐるみを背中に担いでいる(リュックに入れて顔を出しているのですが・笑)人もいる! とにかく混み合う車内は笑顔で溢れていた。万博会場「夢洲」のひとつ手前「コスモスクエア」駅を発車、すると車内放送から「コブクロ」のオフィシャルテーマソング「この地球の続きを」が流れます。もう、車内は期待と興奮の増殖で最高潮だ。

駅を出て地上に上れば青空の下、一五八参加国(地域)、七国際機関日本と博覧会国際事務局を含めた合計一六七旗が旗めいている。一九七〇年の大阪万博を思い出します、そんな高揚感を抑え、人の流れに身を任せ東ゲートにたどり着いたのです。時間は一五時三〇分、入場開始まで後三〇分。ここでは並んで待つほかない(笑)、今回の旅のテーマが出鼻から挫かれたが特別ルールを適応してノーカウントとしましょう。

会場に入れば、あの世界最大木造建造物が!!

一六時きっかり、入場受付が始まった。二〇分もかからず入場できた、手荷物検査のイメージは空港の検査ほどシビアじゃないのか!? 勿論、手間取っている列もありました、あまりややこしい物を持ってこないことです。いよいよ入場! 東ゲートをくれば「どくん!」と「大屋根リング」が現れた! 今回の私の第一目的はこの「大屋根リング」をゆっくりと一周することなのです。なんと言っても世界最大の木造建造物(現在・ギネス世界記録認定)、使用木材は国産のスギ・ヒノキを約七割使用。歩くことができる「スカイウォーク」の一周は約二〇二五mで、高さが約一二m! 清水舞台の高さが約一二mとほぼ同じ。

期待に胸膨らませ「大屋根リング」の内径部分に突入、「光の広場」前にあるエスカレーターで「スカイウォーク」を目指します。エスカレーターからアメリカ館や「フランス館」が見えます、どこも長蛇の列だ・・・。

「みんな大変だなあ」など思いながら、私は一人「並ばないで万博」を楽しむスタート。

「大屋根リング一周の旅」スタート地点は、真北を時計盤の「二時」としたら、「二時」の位置からのスタートです。ここから反時計回りで「大屋根リング」の旅に出かけましょう! まず最初は、この秋から日本放送協会の朝ドラで放映される準主人公?「小泉八雲(ラファディオ・ハーン)」と関係の深い「アイルランド館」。

次に目に入ってきたのが、『わ! ドイツ』(笑)のサインの「ドイツ館」。この『わ』には、循環の『環(わ)』、調和の『和(わ)』、感嘆の『わ!』の三つの意味があるのです・・・。そして「空の広場」にあるパビリオンは「アゼルバイジャン館」、まあまあ人が並んでいる、なぜだろうか? 入場しやすいのだろうか?

真北「二時」の位置には「タイ館」、この建物が面白い! 家を半分だけ作って鏡状の壁に映し込ませた方式、予算も半分で済む賢い!!

その横には階段のような建物に多くの人たちが並ぶ「スペイン館」、そしてリッチな感じの「サウジアラビア館」。エントラスにステージがある「オーストラリア館」、ここは、人がまだ少なめですね。それに船をイメージさせる形の「インドネシア館」。本当、各パビリオンの意匠に感心させられます。

「うん! 満足、これで八つのパビリオンを見られた!」

「えっ? 中に入っていないって!」

そう言う方もいるでしょう。でも、当然ですこの旅のテーマは「並ばない」のですから(笑)。そろそろネタバレの頃合いでしょうね。

オーバーツーリズムをものともせず、

スイスイ歩ける「大屋根リング」ウォーク!

今回の来場の目的は「大屋根リング」を体感すること、それ以上もそれ以下もない。Googleアースでも確認できる造形物を、ただ歩き、風景を楽しみ、二〇二五万博の象徴的「大屋根リング」を体現したかった。オーバーバリーな言い方をすれば、二度と見られない風景をこの目に焼き付けたかったのです! そんなことを言ったら「入場料金が勿体ない!」と思う御仁も多きうでしょうね。万博の夜間入場料金が三七〇〇円、京都にある「苔」で有名な世界遺産「苔寺(西芳寺)」の拝観料三〇〇〇円です。まあ、好みもありますが、ただの苔とこの風景(笑)どちらがお得か! 考えなくても答えが出ます、私の場合はねっ!

勿論、見たかったモノは幾つかありますよ、前の万博で見られなかった「アメリカ館」の「月の石」、「イタリア館」の日本初公開ミケランジェロの彫刻、「パソナ館」の手塚治虫キャラが語る「心の臓」。見たかったモノは、全て予約いっぱい四時間待ち、せっかく来場しているのになんだか時間が逆に勿体無い気がして! 元々、待つことが大の苦手で、常に動いていたい性格でもあるので(笑)。

そうしていると車専用西ゲート側、一〇時の位置辺りに差し掛かると気持ちよく抜けた青空が見える。空をみていると機影が、おそらく関西

素晴らしい! 「大屋根リング」



167旗が青空に映える、ちょっと感動した。



大阪湾が広がる海だ、気持ちいい! 淡路島の島影がうっすらと浮かんでいる!



「スカイウォーク」で癒してくれる「天空の花畑」

国際空港に離発着する飛行機でしょうね。これから万博に来る人々、それとも万博の思い出を胸に帰路に着く人々、どちらか(笑)。

そんなことを考えさらに歩を進めていくと、大阪湾が眼前に広がる風景が迫ってきました。「進歩の広場」の手前、「スカイウォーク」の足元に「ミヤクミヤク細胞?」のサインが貼られていた、そのキャラをよく見ると「夕日型」のデザイン。なるほど、ここが「サンセットポイント」のようです。ここ「大屋根リング」で一番最高のロケーションじゃないでしょ。

ようか! 断言します!

その風景は大阪湾の全体が眺望できる、右手奥には六甲山系の山並み、その手前には神戸の街から神戸空港に架かる橋、左手奥に明石大橋と淡路島の島影。海に浮かぶ大型タンカーのシルエットがまた絵になります!

まさしく「銀波、金波の茅渚の海(ちぬのうみ)」と昔の人がよく言ったものです。閉会後、大阪湾をこの高さから見られなくなるのが残念です。今だけの風景を胸に焼き付け、残り半分を歩いて行きます。

「大屋根リング」なんとか残す方法がないのでしょうか！？

「大屋根リング」の南側（この時から時の位置）は大阪湾に張り出した「ウォーターブラザ」。「スカイウォーク」から眺めるとどこかのテーマパークにも見えますね。「ウォーターブラザ」の真ん中に建つモニユメント、フランスの凱旋門をイメージさせるようなデザインで何かなと調べてみれば、夜の水上ショーで重要な演出の舞台装置のようです。私には、あまり興味がないので先に進みます（笑）。

歩いていて飽きない「大屋根リング」、リング内の各パビリオン（の造形もだけれど、所々に設置されたお花畑もその理由だ）と思う。「スカイウォーク」横の傾斜面には、リサイクル素材でできた保水・排水各層を一体にしたシートに約八〇万株の花が植えられています。「天空の草原」をコンセプトにしたようですが、どちらかと言えば「天空の花畑」のような空中庭園なのです！

そうこうしているうちに、歩き出した東ゲート側のエスカレーターが見えてきた、この旅のおわりだ・・・。「大屋根リング」を一周し終えつくづく思うことがある「絶対に全部を残すべきだ」と、一部保存（約二〇〇m部分的な保存）は決まったようですが、やはり全部を残さなくちゃ「リング」の意味がないじゃないでしょうか。補修やメンテナンスに費用が掛かるのは分かります、五年後にオープン予定のI・R利益の一部とかで賄って欲しいです。

だって、日本が誇る木造建築技術の結晶ですよ、世界に誇るこの技術の証「大屋根リング」を残したいと思うのです。例えば、補修は五年に一回二〇〇mづつ部分的に行えば五〇年で一周、解体した木材は記念グッズに加工して、次の補修のためのクラウドファンディング返礼品の一部にするとか。経済連や大阪府を含め国がなんとかしてください、お願いします！



リングの近くや下に入れば、その大きさを実感できる。こりゃ、凄い。

意外なおまけを見ても並ばずに済んだ！

一周を終えて、東ゲート側の「大屋根リング・スカイウォーク」エスカレーター横の芝生で日落ちまでゆっくり休憩していた（どちらかと言うとボツとしていただけ。すると「スカイウォーク」の手すり側に人が集まるのです、何かイベントがここから見えるようなので少し待ってみました。すると「ウォーターブラザ」辺りから空に向かいカクテル光線が、これが「アオと夜の虹のパレード・水と空気のシンフォニー」とか言う水上ショーのようです。その後、閉場時間までいるんなイベントがありそうだし、それまで見たら帰宅ラッシュにぶつかかり、地下鉄乗車に並ぶことになる！それはダメだ、テーマからズレてしまう（笑）。今回の旅のテーマもクリアしましたので「では、お先に失礼します！」

当然、帰りの地下鉄は並ばない上に座って帰れましたよ。



一周後、疲れたのでここで休憩、閉場後もこの芝生でゴロゴロしたい〜。



天高く伸びるカクテル光線、水上ショーが始まった。この際に来ります。



ミャクミャクへ、さよなら〜。

追記

この記事を書き終えた後に「大屋根リング」解体後、木材の行き先が決まった。万博協会は、解体した木材の無償譲渡先を募集していたらしい。そこに応募していた石川県珠洲市に譲渡が決まり、珠洲市では「能登半島地震」で被災した方の復興公営住宅の資材として活用されるようです。

市内では、復興公営住宅約七〇〇戸が未だ必要とされているみたいで、市の担当者の方が「万博のレガシーを継承することで、復興に向けた光になる」と語られたようです。

「大屋根リング」は残して欲しかったけど、このような再利用なら大歓迎です！まるで伊勢神宮などの遷宮後のお宮のようだと感じました。運営後、古いお宮は解体され、その木材を全国の神社で再利用される循環システムになっているのです。このシステムは日本古来から続いた日本人の知恵だと思います、また誇りにも感じています。

「大屋根リング」よ石川県に行き人々の希望の光になれ！でも、もう一度歩きたい。

ソノびヨリの同志たちも利用した航路

島根から「隠岐の島」を繋ぐ航路、この航路で「隠岐の島」に渡った同志たちがいる。天皇陵から天皇の足跡を旅する「赤木翁」と動物をこよなく愛してやまない「やまんなかタヌキ」さんの二人だ。小生はいまだ乗船・上陸しておらず残念です、島の話聞けば羨ましい限りだ・・・よく似た島名の「老岐島」には呼子から渡ったのだけれど、関係ないが（笑）。

小生が一番馴染み深い、

石垣・鳩間島航路の「かりゆし」



いまだ現役の「かりゆし」、石垣島・離島橋から人口約六〇人ほどの鳩間島を繋ぐ航路。当時、鳩間島に渡るには週三日運行のこの船が、西表島に一度入り上原港から郵便船に乗るほかなかった、ある意味、八重山諸島の秘島だった（笑）。

この「かりゆし」は「賞客船」でもあり、島の生活物資も運ばれている。ただ、この船、足が遅く弱く高波ですぐ欠航してしまう始末。小生たち旅人はまだいいが、公共工事などの物資が届かず、役場から派遣されたガッテン系のお兄さんたちが屋から桟橋近くでよく酒盛りをしていた。いい思い出だ。

現在では「八重山観光フェリー」「安栄観光」両社とも一日一便高速船が運航しています、直行なら石垣より四〇分ほどで、速いです。

第六回

写真・文／カベルナリア吉田

「スロートラベル

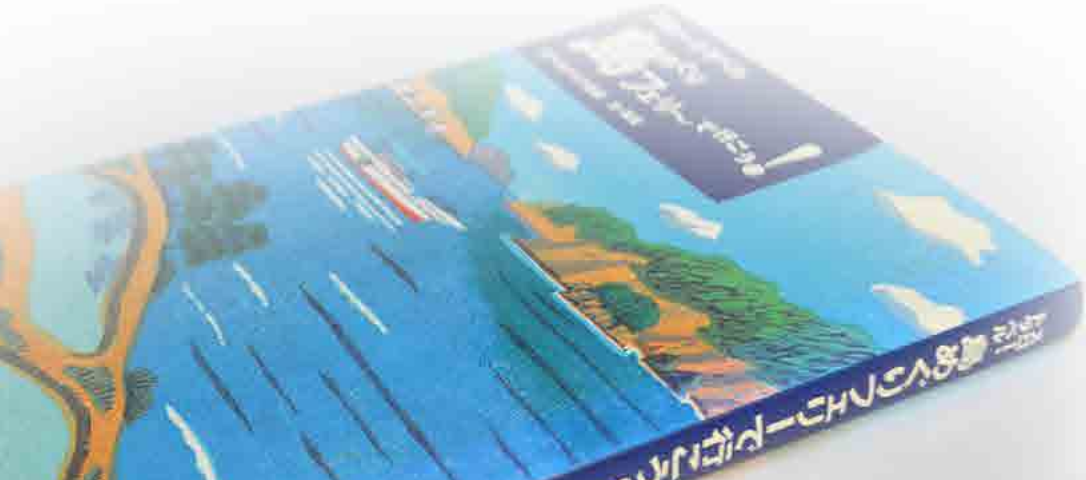
島めぐりフェリーで行こう！」

出版社 東京書籍



時代を超える「スロートラベル」エッセイの良書
古い本で、既に絶版しているかもしれない一冊。紀行エッセイスト「カベルナリア吉田」さんの初期作品「スロートラベル 島めぐりフェリーで行こう！」を今更の紹介です。

刊行されたのが二〇〇三年、今から二年前、掲載されている一一航路中現役で稼働している機材（船）は、なんと四隻・・・（一一航路とも運行はしてまずよ、お間違いない）。この本を参考





肴

ITIGOU HITONA

酒は日本酒、四季など関係なく燗酒一筋。
真夏に汗かき呑む燗酒、真冬に心を解かす燗酒。
一献一合、酒場の隅で旅路を思う、一合一肴の旅に出る。
暖簾をくぐり席に着く、今日の品書き何だろう、
それが本日の目的地。

あわす肴 豚ともやしの炒め 六五〇円
料理を引き立てる辛口の純米大吟醸酒に合わせるには、超々庶民的で酒の旨み素材「もやし」を使った二品「豚ともやしの炒め」。キレのある「魔斬」には、少し味の濃い肴がいい、なぜなら？ この純米大吟醸は何となく日常酒の感じがするからです（無茶な茶会が済んですね・笑）。その肴こと「豚ともやしの炒め」は、一袋分のシャキシャキ「もやし」が山盛り、その中から出てくる出てくる豚肉！ 味付けはピリ辛の醤油味。本場には、この純米大吟醸は食中酒としても優れたもの、料理を引き立てる上に「魔斬」の旨味も満喫できる。本日は、ご飯をお酒に変えた「豚ともやしの炒め定食」一献だった。ごちそうさまです（へ息）。



酒 / 初孫 魔斬 超辛口純米大吟醸酒 (山形県)
肴 / 豚ともやしの炒め

東北銘醸
初孫 魔斬 超辛口
純米大吟醸酒
原料米 山形産美山錦
精米歩合五〇%
日本酒度+二二 酸度一・四
アルコール分一六・二%
産地 山形県酒田市十里塚

本日は、山形を代表する蔵元「東北銘醸」さんから、大好きな「初孫」シリーズの「魔斬（まきり）」で「酒のムラタ屋」一献です。この「魔斬（まきり）」という吟醸名は、蔵のある酒田市の名産品で古くから漁師さんが愛用してきた「切れ味の鋭い小刀」からきているそうです。また、魔を斬ることから魔除けの縁起物とされています。その名通りの酒質は辛口で、研ぎ澄まされた刃のよう切れ味が鋭い。勿論、地は華やかなイメージだけど、香りも穏やかで嫌味がない、さすがは「初孫」です。さらに燗にすれば、後口にかすかに甘みを感じ、余韻が残る、まさに生酛造りのいいお酒だ。「初孫」シリーズはハズレがなく、いつも楽しませてくれる。



男山酒造
羽陽男山 出羽豊穰
小仕込特別純米酒 ひやおろし
原料米 出羽燦々
精米歩合五五% 日本酒度+一
酸度一・五 アルコール分一五%
産地 山形県山形市八日町



酒 / 羽陽男山 出羽豊穰 小仕込特別純米酒 ひやおろし (山形県)
肴 / 名物うなぎパン

本日は友人の還暦誕生会に呼ばれ、世界遺産の天童陵が近くにある「堺東」の「No.5」さんでの一献です。このオーナー兼シェフの経歴は、なかなか凄い！ 一〇〇日以上のクルーズツアーのシェフであったり、ミシュラン認定レストランで勤めていたり！ 気になる方はお店のホームページをご覧ください。そんなシェフがセレクトした、山形県「男山酒造」さんの限定酒「羽陽男山・出羽豊穰 小仕込特別純米酒ひやおろし」を頂くことにしました。この「男山酒造」さんは、二〇〇年以上の歴史を持ち蔵主山系の豊富な伏流水に恵まれた酒蔵さんなのです。そして、長い銘柄の（笑）「羽陽男山・出羽豊穰 小仕込特別純米酒ひやおろし」は、少量仕込みで丁寧に醸し、山形県オリジナルの原料米「出羽燦々」を五五%まで磨き上げた口当たりいいお酒なのです。燗酒で頂くと「酸」が強めに感じますが、その後「じんわり」と柔らかく広がる旨味は秋酒らしい。冷やでもいい、燗でもいい、秋の夜長に丁度いい旨い酒だ。

あわす肴 名物うなぎパン

「じんわり」と柔らかく広がる旨味のお酒に對抗する肴は（笑）！ このお店「No.5」の名物「うなぎパン」。この「うなぎパン」、ご近所の「クラブ」のお姉さんたちにも大人気なんです。「鯖サンド」や「うなぎパイ（お菓子じゃなくイギリスの料理のね）」なら知っているけど、「うなぎパン」？ こんがり焼き上がった薄切りトーストに「うなぎ」を挟んだホットサンドだった。さすがは経験豊富なシェフ、誰も「うなぎのサンド」なんて思いつかないあ。ホットサンドは、バサつき気味であまり好きじゃないけれど、一口食べればイメージが「転」！ 油の乗ったうなぎとタレで、焼いたトーストのバサつきを感じさせず口の中にうなぎの旨味が染み渡る。それを少し「酸」が強いお酒を流し込めば、また違う、さっぱりした旨味が広がる。ちょっと贅沢なリッチな気分が味わえる酒の肴です、本日に美味しい日本酒の肴によく合う！



酒 / 萬歳楽 純米 (石川県)
肴 / ズッキーニ蒸し焼き

小堀酒造店
萬歳楽 純米
原料米 五百万石
精米歩合七〇%
日本酒度+九
酸度不明
アルコール分一四%
産地 石川県白山市鶴来本町



あわす肴 ズッキーニ蒸し焼き 六八〇円
冷やで味見をした時に「白ワイン」のイメージを持ったので、本日の肴は「ズッキーニ蒸し焼き（すりおろしチーズかけ）」にすることにしました。大将にオーダーを伝えると「時間がかかるよ、三〇分ほど！ 大丈夫？」と聞かれたが、こちらは大丈夫、なぜなら、お酒を「燗冷まし中」なので（笑）。熱が取れ飲み頃ひつたり「ズッキーニ蒸し焼き」が出来上がった、さすがは大将です、分かっていますね！ 皿にはズッキーニの半身、食感を残しているため歯応えもいい、そして、クセのある「おろしチーズ」と新鮮な香りの「エキストラバージンオリーブオイル」がアクセント。まさにイタリアンな白ワインの肴だ（笑）、日本酒にもよく合う、おしやれたね大将！



本日はムラタ屋さんで、「めでたいお酒」をコンセプトに石川県白山市で約二〇〇年の歴史を持つ「小堀酒造店」さんの「萬歳楽（まんざいらく）純米」で一献です。まずは冷やで味見をしてみたら、感想としては「酸」がやたら尖っていてお米の旨味を感じにくい印象（何だか若い白ワインのような）・・・。気を取り直して、ぬる燗にすれば先ほどより旨味が出てきた。おっ、これは！ ーと思わず少し時間をおき冷ますことに、徳利の熱が取れてきた辺りで再度一献。そうすれば、「酸」の角が取れ、純米酒ならではのほんのり甘い米の旨味があり、キレの良いお酒に変わった。うーん、このお酒は「燗冷まし」でポテンシャルが上がり、隠れた魅力を発見できる、面白いお酒なんですね（個人的な感想なので干差萬別がありますよ）。

酒 / 天野酒 純米吟醸 (大阪府)
肴 / 酒かす入り焼きねぎ味噌とおぼろ豆腐

一四三 献目

西條合資会社
天野酒 純米吟醸
原料米 国産米
精米歩合 六〇%
日本酒度 未表示
酸度 未表示
アルコール分 一六・一七%
産地 大阪府河内長野市長野町



先日、お邪魔した大阪府河内長野市の酒蔵・「西條合資会社」さんの「天野酒・純米吟醸」で、本日は宅呑み二献です。この酒蔵さんの歴史は古く、一七二八年(享保三年)と約二〇〇年もの間、河内長野で酒造業を営んでいるのです。創業から昭和期まで「三木正宗」「波之鶴」の銘柄を醸造していたようですが、昭和四十六年に「五つの国宝」を保有している名刺「天野山金剛寺」救しを経て古き伝統の酒「天野酒」を復活されたのです。

その「天野酒・純米吟醸」の常温でのお味は、しっかりと目の吟醸香を持ち、口当たりの良い少し甘めのイメージ、ほどよい酸味も感じられる。燗にすれば、口当たりがさらに柔らかく、優しい甘みが変わった。さすがは太閤秀吉公が愛したお酒、奥深く歴史を感じさせてくれるお酒です。大昔のお酒ってこんな感じだったでしょうね。

あわす肴 酒かす入り焼きねぎ味噌とおぼろ豆腐

合わす肴は酒蔵「西條合資会社」さんで買ったお土産の「酒かす入り焼きねぎ味噌」。このまま瓶めて肴にしても旨いのですが、記事にするには絵画が悪いので(笑)・・・そこで「おぼろ豆腐」に添えることにしました。

その「おぼろ豆腐」も大阪産に拘ることにしました。「お酒、味噌」も南大阪産、やはりお豆腐も南大阪産じゃないとね、そこで堺市の高丸食品さんの「仁徳」を選ばず、これで南大阪産酒肴のアンサンブルの完成。

「酒かす入り焼きねぎ味噌」は本当に旨い、酒の肴にも「飯のお供」にも「相性がいい」。「味噌」「ねぎ」そこに、酒を絞った後の「酒かす」で作る「焼きねぎ味噌」は、旨みたっぷりのアミノ酸の宝庫だった！

酒 / 廣喜 特別純米 秋酒 秋刀魚ラベル (岩手県)
肴 / 秋鮭のグリル・ジェノベーゼソース

一四四 献目

紫波酒造店
廣喜 特別純米
秋酒 秋刀魚ラベル
原料米 岩手県産米
精米歩合 六〇%
日本酒度 十三
酸度 未表示
アルコール分 一六%
産地 岩手県紫波郡紫波町



今宵も「No.5」さんで二献です。本日いただくお酒は、岩手県紫波郡にある小さな酒蔵「紫波酒造店」さんの秋限定酒「廣喜 特別純米 秋酒 秋刀魚ラベル」です。酒蔵さんのある岩手県紫波郡紫波町は「南部杜氏発祥の里」と言われ、我々のような日本酒好きにとつて聖地のようなところですね。そんな伝統を持つ地域の「紫波酒造店」さんから、なんと！南部杜氏・初の女性杜氏・小野裕美さんが誕生したのです。伝統を重んじる杜氏の世界で大変な想いでなられたんでしょうね、素晴らしいです。その情熱が、そんな杜氏さんが造る「廣喜 特別純米 秋酒 秋刀魚ラベル」は、秋の味覚と相性がいい旨口純米、お米の旨味とほのかな酸味が食中酒にもってこい、その上、ひと夏寝かした熟成酒！と言っても熟成バリバリではなく、熟成酒ピキナーに最適なライトな熟成感に仕上がっている。一度、試してください。

あわす肴 秋鮭のグリル・ジェノベーゼソース

秋限定酒のお酒に合わせた肴は「秋鮭のグリル・ジェノベーゼソース」！さすがはミシュラン認定レストランを経験したシェフです、おしゅれ感満載の肴です。秋鮭の焼き具合は皮めがパリッと、表面の身の部分は程よい食感があり、中はほのかに暖かいレアになっている。そして香り高い「ジェノベーゼソース」、このソースは日本酒の邪魔になるかと思つたが、合うのですよ意外に！

あつ、言っていないかつたけどオーナー兼シェフの「中野大悟」さんは、無農薬での「自家栽培」をやっていて、お店で使用する野菜の多くは、そこで採れたものを提供しているんです。その上、道の駅でも販売しているんだって。

この「ジェノベーゼソース」のバジルやニンニクも自家栽培で採れたものか聞けばよかった・・・ここはゆっくりと呑みにきたいお店です、日本酒のセレクトが変わる時に再訪しますね。



酒 / 八鹿 大吟醸 (大分県)
肴 / りゅうきゅう (りゅうきゅうもどき)

一四五 献目

八鹿酒造
八鹿 大吟醸
原料米 国産米
精米歩合 三五%
日本酒度 十三
酸度 一二
アルコール分 一五%
産地 大分県玖珠郡九重町大字右田



本日は、お土産で買った大分のお酒で二献。大分の酒のイメージは、やはり麦焼酎です。ね、日本酒って非常に珍しくどんな感じか興味を湧く！福岡出身の私自身も大分の日本酒は、呑んだことがなくありがたういただきます。

このお酒を醸造する「八鹿酒造」さんは、「九州の屋根」九重連山の近くに蔵があり、自然の恵みと約一六〇年共に歩んで醸造してきた酒蔵さんです。その風味は、精米歩合三五%まで磨いただけあり、大吟醸らしい吟醸香が立ち上がります。それにキレの良さが感じられ、さすが、九重連山の伏流水で仕込んでいるおかげです、本当に自然の恵みですね。少し温度の高めの燗で頂くと、ちょい嫌な醸造アルコールの癖も飛び香みやすくなる(個人的に)。このシリーズには熟成「三年古酒」があるみたいなので、今度、福岡に帰ったとき足を延ばして買いに行ってみます。



あわす肴

りゅうきゅう
(りゅうきゅうもどき)



初めて呑む大分県のお酒、やはり大分の郷土料理を肴に合わせたくなる。そこで郷土料理「りゅうきゅう」にすることにしました。福岡にもよく似た料理(ゴマサバ)があり作り方も簡単に酒によく合う。大分郷土料理「りゅうきゅう」とは、新鮮な刺身用の青魚のツケと想像していただければいいです。

用意するのは、「九州醤油(出来ればフンドーキンのゴールデン紫・笑)」「みりん」「料理酒」「生姜」「白胡椒」と「青魚(サバ・アジ・カンパチなどどれか)」。とほぼ台所にあるもので出来ちゃいます。ツケタレの作り方も簡単、大さじで「醤油・2」「みりん・1」「料理酒・1」そこに「おろし生姜・1片(チューブ入りでもOK)」それに「スリゴマ」を投入して混ぜ合わせば完了。

そのツケタレに魚の切り身を浸けて冷蔵庫で二・三時間おけば完成です。今回はぜいたくに「寒ブリ」を浸け込んだ！本当は「サバ」で作ったかたのですが、都会では新鮮なサバがなく断念・・・それでも九州酒によく合う肴で一献できた！！

ソノビヨリ

Lunch in the sky at
a sake brewery

2025

Aug. 8 day

第四一話 大阪府河内長野市

『南大阪の奥座敷、文化財の酒蔵でいただく天空ランチ』

大阪南・なんばから三〇分で行ける、

南大阪の奥座敷。平日観光に最適。

大阪・関西万博が開幕して早くも二ヶ月、秋も深まり観光シーズンの到来・・・と行きたいところだけど「万博ロス」で（笑）大阪への観光客が減少気味・・・。そんな時こそここで大阪の魅力を紹介したい、「万博ロス」などを乗り越えて〜！

大阪市内の宿泊施設が多く集まる「南」エリアから、南海高野線「なんば」から急行に乗れば三〇分弱で到着できる、ちよつとレアな南河内エリアの半日観光に最適なスポットを紹介しします。

南海高野線「なんば」から急行（乗車時間二八分）に乗れば六駅で「河内長野」に到着、ホテルをチェックアウトしてからでも充分余裕があります！ 大きな手荷物などあれば「なんば駅」のコインロッカーに預けるのがオススメです。

河内長野駅舎から出ればロータリーを囲むように立体歩道があり、ショッピングモールにも連絡しています。その歩道の西側の階段を降りれば「世界遺産・高野山」まで続く「高野街道」に入ります。

今回の旅の目的、「大阪の食」と「日本酒」それに「文化財」を楽しむ旅の始まりです。

目的の地まで徒歩約五分の間、「高野街道」を楽しんでみましょう。この道には普通の民家と思われる軒先に、「杉玉」や「高野街道」と記された「灯籠」があちこちに飾られている。観光資源を地域で後押ししている様子が伺えて、何か嬉しくなってくる道ですよ。街道の路面にも街道名入りブロックがはめてあり、これなら迷う心配がない親切な町でもありますね。

そんな街道筋の町並みを楽しんでいれば、あっ！という間に本日の目的地「天野酒・西條合資会社」さん「酒蔵ダイニング・大阪産料理 天空」に着いてしまいました（早っ）。



東西の「高野街道」が合流する地点。趣のある日本家屋「吉年邸」が建ち、その背後には高さ20mのくすのきが聳えています。



絶対に道に迷うことがない、いたる所に表示がある親切な街道です。

国の有形文化財の建造物が酒蔵ダイニング！

この「酒蔵ダイニング・大阪産料理 天空」の店舗（建造物）は国の有形文化財で、「高野街道」面した酒蔵の旧店舗・主屋と土蔵だった、建造年は幕末から明治初期と考えられていて、左右の店舗はなんと「二一間（けん）」。二間が約一・八mだから、二〇mもあるのです、これを大店（おおだな）というのでよね。それもそのはず、この西條合資会社さんの酒造りの創業は、江戸時代中期の一七七八年（享保三年）、その歴史は約三〇〇年なんですって！

そんな長い歴史の残骸を感じつつ暖簾をくぐると、土間が広がり現在はカウンター席として使われています（お客さんが食事中でしたので撮影ができず残念）。その奥も土間が続き「待合席」になっていた、大きなカマド「へつついさん」が残っています。カマドの対面には二階にあがる段梯子があり、昔は蔵人たちが部屋に使っていたのだと思います。

その場でしばらく見学しつつ待っていると、予約の時間が来て座敷に案内されました。（ここで注意です、現在、ランチは完全予約制になっています。行く時は必ず予約してくださいね。）

小上がりを上がり座敷に案内されると、中庭からの採光を取り入れた明るいお部屋にテーブル席が並んでいる。ふた部屋で四〇席ほどあったと思う。隣とのテーブル間の距離も広くとっており、ゆったりと食事を楽しめる空間になっていた。「お好きなお席にどうぞ」と言っていたいたので、悩んだ挙句に所間の前にさせて頂いきました。今から頂く、酒と料理に胸膨らませ待つことにします。



国の有形文化財の西條合資会社の旧店舗・主屋をリノベした「酒蔵ダイニング・大阪産料理 天空」



広々としたスペースがいい！ 落ち着いて食事ができますね。写真には写っていませんが欄間の彫りが時代を感じさせてくれます。

建造物に歴史あり、天野酒にも歴史ロマンがあった！？

さてここは酒蔵ダイニング！ 昼から呑んでも罪悪感なし！ 料理がくる前にお酒の注文をします〜（笑）。卓上のメニューには色々な種類のお酒が載っている、一般的なものからプレミアムなお酒もある。色々と迷ってしまう、そんな時には本誌の「一合一肴」さんを真似て「天野酒・本醸造」ぬる燗で一献ですね。

料理前にも出してもらったお酒の徳利とお猪口には、昭和時代に醸造していたお酒「波之鶴」の銘柄が印字されているけど・・・？ 今は醸造されていない、現在は「天野酒」だけみたいだけど？ なぜ、「波之鶴」から「天野酒」に醸造を切り替えたのだろう、なんとなく不思議に思い調べてみた。そこには蔵元さんの情熱と歴史に挑戦するロマンが見えてきた。

はじめに「天野酒」の歴史を話しておきましょう。この「天野酒」の歴史は古く、蔵元が創業した江戸より昔、なんと安土桃山（織豊）時代までさかのぼります。この銘柄「天野酒」の発祥は、ここより約五・五kmほどにある古刹、開山一三〇〇年の歴史を誇る「天野山金剛寺」なのです。この「天野山金剛寺」は、南北朝時代の南朝の「後村上天皇」が五年間お暮らしになった「行宮」跡もあり、なんと国宝を五つも保有している由緒正しきお寺なのです（笑）。そんな、すごいお寺で「僧坊酒」として造られたのが「天野酒」、太閤さんこと「豊臣秀吉」にも愛飲され、多くの武将にも愛されたお酒のようです。そんなお酒が、江戸前期に幕府の寺院統制の強まったことで、突如と醸造できなくなり「幻の酒」となってしまったのです。

時代は流れ流れて、高度成長期の昭和四十六年（一九七一年）に当時の「天野山金剛寺」座主の協力の上、九代蔵元「先代蔵元」が「天野酒」を復活させたのです。その醸造法（製造工程）を記した資料もなく、古い文献から読み取り試行錯誤を繰り返して造り上げた情熱の賜物のお酒なのです。「天野酒」の中には、その情熱と歴史ロマンが溶け込んでいる様に見えます、漉のように。

そんな歴史に感じしていると、待ちに待った料理が出て来ました！ ここで「酒蔵ダイニング・大阪産料理 天空」で使われる食材の説明も。使用されている食材は、基本「大阪産（もん）」、季節により旬の食材を活かした料理が食べられます。大阪グルメを楽しみたい方にはうってつけ、一石二鳥ならぬ「大阪もん」を一網打尽できるお店なのです！！



熱燗で食事前一献。レアものやプレミアム酒などお酒は豊富！ そりゃ、酒蔵さんですからね。



昭和時代の銘柄「波之鶴」の広告看板。むかしはこのタイプの看板、多かったですよ！ 醤油や蚊取り線香、オロナミンCなど（笑）。



百舌鳥・古市古墳群 勝手に世界遺産登録記念

還暦前、写真家の「写して候・寄って候」 天皇御陵踏破の旅

外伝編

五「路もなかばの頃、ふと考えた」

日本国とは何なのか、日本人とは何なのか

その答えを探す為に、2600年を遡る時空の旅へ出た

イデオロギーなど関係無い、ただ、

今ここに残る時間の集積を写してみたい

写真取材 赤木賢一



「牛肉のグリル赤ワインソース」、お肉は当然ですが添え物のサラダも美味しかったです。



コースの最初の料理は大阪産食材の前菜プレート



本日のデザート、これもお酒に合うのです。



天野酒「酒かす入り焼きねぎ味噌」これ本当に美味しいですよ！

ミニコースのスタートは古代米を使った食前酒「天野酒・甘酒」から、甘味が爽やかなデザート酒のような感じで飲みやすく、お酒がダメな方もノンアルコールなので安心ですよ。食前酒と共にサーブされたのが「前菜プレート」、六種盛りの内容は（写真参考に）向かって左から順に紹介。「ゴーヤと多岐ビケルス、鮭の南蛮漬け、泉州水茄子と無花果カプレーゼ風、青紅葉麩、焼きナスセリイ寄せ、よもぎ麩田楽」どれもお酒に合いますね。美味しい料理を味わい、お酒を一献、また飲み、また一献と、ゆつくり時間を楽しむことができます。気づけば徳利が空に、ここでもう一合追加（笑）。そうしている内に料理はメインへ。メイン料理は牛・豚・鶏料理から選ぶことができ、ほろ酔いの頭で悩んだ末に「牛肉のグリル赤ワインソース」にしました。メインには、もちろん、ご飯とお味噌汁が付いてきます。そこに「天野酒のネギ味噌」がついてきた。一口食べるとこの「ネギ味噌」絶品なのです！「ご飯のお供にも、酒の肴にも相性が良く、とにかく旨い！」もう一合をたのみかけましたが、ここはグツと我慢しました（お昼から三合はさすがに）。最後は食後のデザートとコーヒークリーム（これで税込三三〇〇円、大阪もんを楽しむ有形文化財にも触れ合うことができます、お得なミニコースランチですよ。



「酒蔵ダイニング・大阪風料理 天空」の向かいの現在の酒蔵事務所にあるショップで「酒かす入り焼きねぎ味噌」を購入。宅呑みの朝に！

ランチの後は観光へ、南北朝時代の古刹へ歴史探訪。お腹も膨れ、ほろ酔い気分、ここで近隣の観光を紹介していきます。先のど話した「天野酒」が造られていた「天野山金剛寺」には、河内長野駅前より南海バス・四番乗り場より約三分（天野山で下車）、駅前の観光案内所で電動アシスト付自転車をお借りすれば約五分（料金 四時間・五〇〇円、一日・一〇〇〇円）。健闘で時間がある方なら「日本遺産」の「天野街道」を歩いて行くもオススメです（天空から約五・五km、約一時間二〇分）、秋は紅葉が美しく、春には桜が咲き、より国宝を彩ってくれます！ 国宝以外にも国の重要文化財もあり見所満載な古刹です。もう一箇所、やはり南北朝時代の南朝ゆかりの古刹「観心寺」。ここには南北朝時代のヒロー「楠木正成」の「首塚」や「後村上天皇」が暮らした「観心寺行宮」跡と天皇陵「楠尾陵」があり、南朝と関わり深いお寺なのです。もちろん、国宝も三つあり、国の重要文化財も数えきれない数を保有されています。これからの時期は紅葉が見所で、春から夏にかけては深緑の木々が美しい場所です。ここに来られたら「えっ！ここ大阪？」と思ってしまうかもしれませんね（笑）。アクセスは河内長野駅前より南海バスで約二分（観心寺で下車）、「天空」より自転車約二〇分。徒歩なら約三・六km、約五五分です。どちらの古刹もランチを取ってからでも、充分、ゆつくり観光できますよ。どうですか、大阪もんの美味しい食事をいただき、文化財を楽しみ、自然の中で歴史に触れ合う半日の旅を。大阪の隠れた魅力を発見できるかもしれませんね。



山深さを感じる「観心寺」の山門。境内より山門を振り返ると、自然の中にあることがよく分かります。



「天野山金剛寺」、春には桜が美しい境内。「多宝塔」と国宝の来日如来が奉られている「金堂」、共に国の重要文化財です。



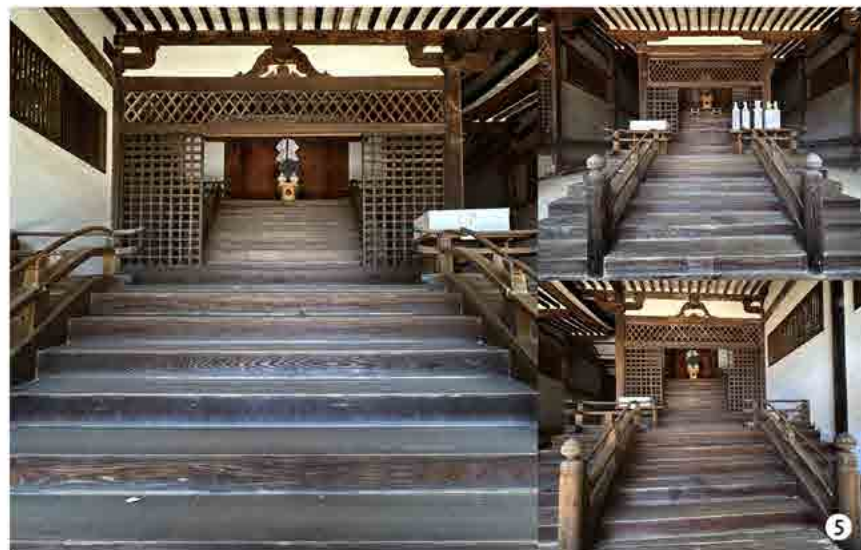
本殿に「菟道稚郎子」を
道案内した「みかえりうさぎ」

「宇治神社」と「社」一体の「宇治上神社」、その祭神は左殿「菟道稚郎子」、中殿「五代・応神天皇」、右殿「六代・仁徳天皇」の三柱。また、「応神天皇」の離宮「桐原日楠宮跡」であり、皇子の「菟道稚郎子」の宮居跡とも伝えられ、「菟道稚郎子」の薨御後に御神霊を祀ったのが始まりである。

「本殿」は「国宝・重要文化財」で年輪年代測定調査の結果、一〇六〇年頃の建造で「最古の神社建築（現存）」とされている。また、ユネスコの世界遺産に「古都京都の文化財」の構成資産として登録されている。「宇治神社」より、約二、〇〇m、徒歩三分と近い。

所在地 宇治神社・宇治上神社
京都府宇治市宇治山田
最寄駅 京阪宇治線「宇治」より、約六〇〇m、徒歩八分

「宇治神社」の祭神は「菟道稚郎子」一柱のみの神社。『日本書紀』で語られている、父の「応神天皇」により「菟道稚郎子」が皇嗣（皇太子）と定められたが、「応神天皇」崩御後、兄宮（異母兄）である「大鶴鵜命（後の仁徳天皇）」に皇位を就くよう勧めた。だが「大鶴鵜命」が拒否したことで、約三年間、皇位の譲り合いが続いた。その間、「菟道稚郎子」は宮居を「河内の国」から「菟道（うじ）」に移すことにした。「河内の国」から「菟道」へ向かわれる途中、道に迷い困っていたら「二羽のうさぎ」が現れ、この地に導かれたと伝わっている。



5「宇治上神社」国宝の本殿 左・左殿が菟道稚郎子 右上・応神天皇 右下・仁徳天皇



4「宇治神社」国の重要文化財の「本殿」



1「お茶と宇治のまち歴史公園」より「宇治墓」の全貌を望む。



7「朝日山観音堂」の直ぐそばに佇む「菟道稚郎子の墓」



6登山道の途中にあった「大吉山展望台」



23 御陵でも無いのだが美しく整備されていた、さすがは追尊天皇クラスの墓だ。

宇治（うじ）墓 御名 菟道稚郎子（うじのわきいらつこ）
生没年 生年不詳／壬申年 時代 古墳時代
続柄 応神天皇（父）・仁徳天皇（異母兄） 陵形 前方後円

所在地 宇治墓 京都府宇治市菟道丸山
最寄駅 京阪宇治線「宇治」下車、約五五〇m、徒歩八分

「菟道稚郎子」は「五代・応神天皇」の皇子で『日本書紀』には皇太子とも記されている。その『日本書紀』では、父「応神天皇」の寵愛を受けて立太子（皇太子）されるも、異母兄の「大鶴鵜尊（おおささぎのみこと・後の仁徳天皇）」に皇位を譲るべく自死したと伝わる。『古事記』においては「夭折」とされている。また『播磨国風土記』では「菟道稚郎子」と思われる人物を「宇治天皇」と表現されている謎多き人物。その名前の如く「菟道（うじ）」が現在の「宇治（京都府宇治市）」の古代表記であることから、宇治地域との関連が深く、この地に「菟道宮（うじのみや）」を営んだとも伝わる。

その墓は、江戸時代・中期まで所在は不明となっていたが、『日本書紀』の記述に基づき「朝日山（宇治上神社後背）」山頂が墓所とされ墓碑を建立した。その後、明治二三年に「丸山古墳」に治定され「宇治墓」となり宮内庁の管理下に入った、その陵形は前方後円とされている。

磐坂市辺押磐皇子（いわさかのいちのべのおしほのみこ）墓

御名 市辺押磐皇子（いちのべのおしほのみこ）
 生没年 生年不詳、安康天皇三年 時代 古墳時代
 統緒 履中天皇（父） 顕宗天皇（子） 仁賢天皇（子） 陵形 円墳（二基）

所在地 磐坂市辺押磐皇子墓 滋賀県東近江市市辺町
 最寄駅 近江鉄道本線「長谷野」下車、約一〇〇m 徒歩二四分

「市辺押磐皇子（いちのべのおしほのみこ）」は、父には「二七代・履中天皇」、子に「三代・顕宗天皇、四代・仁賢天皇」を持つ五世紀頃の皇族と伝わる。その御名は、『日本書紀』によると「磐坂皇子（いわさかのみこ）・磐坂市辺押磐皇子・天万国万押磐尊（あめよろずくによろずおしほのみこ）」で、『古事記』では「市辺之忍爾王・市辺忍爾王（いちのべのおしほのわけのみこ）」と記され『播磨国風土記』によると「市辺天皇命（いちのべのすめらみこと）」とされている。

この皇子は「履中天皇」の御子であり有力な皇位継承者であったため、皇位継承を望む「大長谷若建命（二九代・允基天皇の御子、後の二二一代・雄略天皇）」によって近江の蚊屋野にて殺害されたと伝えられている。
 その後、「顕宗天皇」の即位により父の「市辺押磐皇子」遺骨を探し出し、その地に墓を築かれといわれている。その地とは、現在の東近江市市辺町で、円墳二基の「磐坂市辺押磐皇子墓」が宮内庁に治定されている。



2 3 二つ並ぶ墳丘の左側が皇子墓、右側が共に殺害された佐伯部仲子の墓。



1 県道一七〇号線が緩やかな右カーブに差し掛かるところに、小山を発見。児童公園ほどの大きさの「磐坂市辺押磐皇子墓」に到着した。

所在地 市辺忍爾別命山陵（熊の森古墳）
 滋賀県東近江市妙法寺町
 最寄駅 近江鉄道本線「八日市」下車、約四km、徒歩五〇分

所在地 市辺押磐皇子塚（前方後円墳）
 福井県大飯郡おおい町名田庄村拳原
 最寄駅 なし

「市辺押磐皇子」三つ目の墓（塚）は、「近江地方」と「若狭地方」の境となる三國峠の北西近く、福井県大飯郡おおい町名田庄村拳原（あげはら）にある。この墓（塚）は「皇子塚」また「御子塚」と呼ばれ、山中の中の小さな前方後円墳と言われている。この場所を「市辺押磐皇子」の墓（塚）と、江戸時代中期の国学者「本居宣長」が『古事記伝』の中で治定している。そのようなことから、宮内庁の治定している「磐坂市辺押磐皇子墓」に異論を唱える識者も多い。

この塚のある「拳原」は、昭和四八年（一九七三年）まで「拳原村」と呼ばれていたが、この年に最後の一人が移住したことにより廃村となった。それまでは、年に二度、春と夏に「皇子塚講」として花やお餅などで供養したと伝わっている。



8 宝篋印塔の文字が梵字のように読めない



5 大小二つの墓標が建っていた 4 前方後円墳の可能性があると言われていたが分からない・・・



6 右上・轍のある林道・・・これは俗にいう踏道。道表示のある分岐に到着。左が塚へと向かう道。右下・市辺押磐皇子塚入口に到着。左上・初めから急な登り。左下・ようやく案内表示「史蹟・皇子塚」だ。



7 塚には花が添えられている、誰かが詣った後のようだ。近くに寄れば、その花は造花だった・・・

昭和マンガ ソノシート

ミラクルA (エース) 編

馴染みのないマンガのソノシート、一度も聞いたことがない……。

歌謡曲のレコードと共に令和に現れた「ソノシート」！『ソノシートって何?』と思う人もいるでしょうね。では、「ソノシート」の説明をしておきましょう。「ソノシート」は「朝日ソノラマ（朝日新聞社の子会社で2007年営業停止・解散）」の商標登録で、普通のレコード、即ちビニール盤のレコードから比べれば音質は劣るものの、安価（廉価かな）で製造ができたレコードなのです。そのため、子供たちも手軽に買えたことで、テレビマンガで放映されていない週刊誌の人気マンガなんかを収録していたものですね。ジャケットはマンガブックになっていて、ソノシートに収録されたドラマを聴きながら楽しむことができます、音声付き漫画本のような物なのです。

でもこの「ミラクルA (エース)」は、貰ったら時（昭和45年くらいかな）から「じゃまけモノ」だった（苦笑）。それは、私が物心ついた時に「ミラクルA」の連載が終わっていて、誰も原作本（コミック）を持ってなかった……。そんなモノを貰っても、誰が聴くのでしょうか？ 絶対に聴かないよ！！

ほんと！ 当時の大人の怠慢さはひどい、マンガ系のモノを与えれば子供は喜ぶと思込んでいたのだろう。「こちらにも好みがあるんだよ！ バカ～～」とあの時、叫びたかった～～（笑）。



貝塚ひろし作
「ミラクルA (エース)」
のソノシート

週刊少年サンデーに
昭和三九年から昭和
四一年にかけて連載
された。
このソノシートの販
売は昭和四〇年で定
価280円。



ジャケットの中間はマンガになっている、吹き出しのセリフと同じモノがレコードに収録されている。凄いのはテレビで放映していないのに、オープニング、エンディングソングも収録されていた。



見開きコマのページもあり、漫画雑誌感があります。最終ページにはレコードが入っています。



昭和ガラクタノスタルジー

家のじゃまけモノ

天袋、家の掃除をしてみれば 出るは出るは、あの日のお宝？
誰が行ったか知らないが 旅の土産のキーホルダー
叱られて、取り上げられたプラモデル
勉強用、買って使わずヒーローノート
誰が聴いたかビックスター昭和歌謡のSP盤
娯楽といえばプロ野球 知らぬ球団、バッヂをつけて草野球

あの頃、捨てずに残したお宝も 今じゃ「家のじゃまけモノ」



旅の土産・キーホルダー



裏・四つの観光名所の地図



表・丸型にゴールドの縁取り

和歌山・南紀白浜編

パンダがいなかった頃の「南紀白浜」観光キーホルダー

今回の家のじゃまけモノは、「いやげ物」のキーホルダー「南紀白浜」です。白浜といえば「ジャイアント・パンダ」でしたが、そのパンダもいなくなり観光客が減少気味ですね。でも大丈夫です！ だってパンダがいなかった1970年代（昭和45～55年頃）、冬場の温泉と夏の海水浴で人が溢れていました。冬場はオジとオバアばかりでしたが（笑）。我が家の母も股関節に持病を持っていたので、関節痛に良いとされていた白浜温泉に湯治がてらよく行っていました。

ここでナゾです、そんなよく行っていた「南紀白浜」のキーホルダーが2つも家にあるのか？ 誰が買ってくれたのか？ 全く記憶にない……。誰かに土産であげるつもりでモノが余ってしまったのか、ナゾがナゾ呼ぶ観光地キーホルダーです。でも、きっと誰も喜ばないと思いますよ（笑）、だって「いやげ物」ですから。



四角のプレートに風鈴付きのキーホルダー。プレートには南紀白浜と記されているだけ。裏面には観光名所、やはり「円月島」「三段壁」だ。

帰ってきたウルトラマン・バッチ



「シーゴラス」



「ウルトラセブン」



「帰ってきたウルトラマン」!?

昭和の大人気・巨大ヒーロー「帰ってきたウルトラマン」バッチ～

またまた、観光キーホルダーの束に紛れて令和に出現したのは、「帰ってきたウルトラマン」のバッチです。この「じゃまけモノ」は、少しだけ嬉しく懐かしいですね～。このバッチの入手は、小学館の「月刊・小学二年生」の懸賞だったんじゃないかと思っていました。でも、調べてみると当時、小学館で「おたのしみデパート」なる現在で言う通販コーナーがあったのです。そこで思い出したのが、隣のお兄さん（一学年上の）と一緒に数個購入したのです。当時は封筒の中に代金分の切手を入れていたと記憶にあります。

あの時は嬉しかったなあ～、ウルトラマンが帰ってきて（1971年（昭和47年）笑）、一週間が「帰ってきたウルトラマン」放映を中心に廻っているような日々を過ごしていました。ウルトラマンもカッコいいのですが、ウルトラマンに変身する「郷秀樹」が！ そう、当時メンズ化粧品品のCMに出演していた「団次郎」さん。その後、数々のドラマにも出演していましたね、近年、お亡くなりになられたことがとても残念です。

駄菓子屋 スーパーカーの王冠



王冠のデザインはホイールとタイヤ



ランボルギーニ・カウンタックLP500



フェラーリの名車、ディノ



知らない車のウラッコ

ジュースの瓶に付いているわけじゃない、役立たずの王冠

また、くだらない（笑）「家のじゃまけモノ」だ・・・、今回は特に価値なし正真正銘のガラクタです。モノは駄菓子屋で売っていた「くじ」になっている「王冠」、ジュースの蓋じゃないのです、「王冠」のみなのです。基を正せば、コーラやファントアの王冠の裏に「スーパーカーまたはスターウォーズ」が印刷されていて、当時の子供達の間で大ブームになっていました（当時ファントアが50円位だったと思う）。それに駄菓子屋の玩具メーカーが目をつけ販売したのが、このバッチ物の「王冠」、確か10円だったかな。

蓋裏のスーパーカーについては、言うまでもなく1975年（昭和50年）に「週刊少年ジャンプ」で連載された「サーキットの狼（池沢さとし原作）」が人気を博し、翌年には空前のスーパーカーブームが始まったのです。

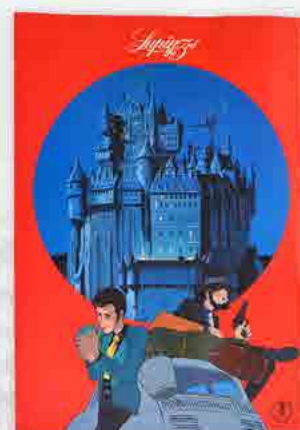
それに便乗した駄菓子屋・玩具がこれ、ジュースなど高価で買えない当時の私を買ってしまったのです（苦笑）。おバカですね、あのころの私は・・・。

昭和映画 パンフレット

ルパン三世編



1979年（昭和54年）公開「ルパン三世・カリオストロの城」パンフレット



1978年（昭和53年）公開「ルパン三世・ルパンVS複製人間」パンフレット

押入れの段ボールから出てきた映画のパンフレット

またまた、じゃまけモノを発見（苦笑）、今回は映画のパンフレット。本などは本箱に入っているのを目に付きやすく、時期が来れば整理するのだけれど。まさか！ 押入れの段ボールに仕舞いこんでいたとは思いませんでした・・・。今回は、その中から昭和・劇場版アニメの名作「ルパン三世」のパンフレットです。

映画に先立ち、1971年に放映されていた一作目のテレビ版「ルパン三世」で、子供心に背徳感があって好きだった！ ちょっとエロくて（笑）、そしてハードボイルドなクールさがカッコよく。でも、二作目のテレビ版はあまり好きじゃなかった、ちょっとマンガばくって（マンガなのですが・笑）。きっと私自身が、少年から青年へと移り変わる時期だったこともあるのでしょうか。

そんな二作目がテレビで放映してた時、「ルパン三世・ルパンVS複製人間」の映画が封切られたのです。キャラクターデザインは原作者の「モンキーパンチ」さんが監修して、一作目のようなハードボイルドでクールなタッチでカッコよく仕上がっていました！ その翌年、1979年（昭和54年）には劇場映画第二作「宮崎駿」劇場映画初監督作品の「カリオストロの城」が公開です。こちらのキャラデザインは、一作目とはガラリと変わっていて宮崎駿タッチになっていました。話は好きなんですけど、キャラデザインに馴染むまで時間がかかったことを覚えている。でも、一年間でここまで主人公の顔が変わるって珍しいことですよ。ほんと、当時はついていけなかった・・・。





ガラス張りの駅ビルの東側に聳える巨大モニュメント。地方の駅に行くときいんだよね、このタイプ。(笑)



案内板には1階と書かれているけど、地上より下の階にある「堺観光案内所」。南蛮貿易の扉画パネルを背景に撮影した姿の「フランシスコ・ザビエル」。堺の「名所・旧跡」の情報が「二次元コード」で読み取れるカードもありました。

誤すれば「初夏の流れる雲を見ていると、潮の遠鳴りを聞き育った故郷、堺をなつかしく思い出す」てなところでしょうか。初夏でもないし、流れる雲も無く、快晴の秋！ 気持ちよく旅の始まり、自転車走らせていきましょう。



駅の西側ロータリーに「与謝野晶子像」を発見！

「与謝野晶子像」より「中世の環濠都市」の北側エリア近くにある隣駅「七道」を目指し、南海本線の高架下を北へと向かいます。約八分（一・七キロ）で「七道」に到着、この七道駅の周辺には、明治期の仏教・民族学者でもあり探検家「河口慧海」の生まれ育った場所でもあり、西洋から種子島を経由して伝来した鉄砲を作っていた鉄砲鍛冶屋が多くあった町なのです。

「七道」駅前ロータリーでは、またブロンズ像に遭遇！ それも旅人の先駆者「河口慧海」の像に。この方はただの旅人というより、偉大なる探検家であり冒険家なのです。

どんな旅をしたかを簡単に説明すれば、一八六六年（慶応二年）この地に生まれた慧海は、一八九七年に当時、厳重な鎖国状態だったチベットへ神戸港から旅立ちました。その行程は、苦難苦難の連続でシンガポール経由で英領インドのカラカッタに入り、約一年間チベット語を修得しつつチベット密航ルートを探索していました。

神戸港を旅立つてから一年、一八九九年（明治三二年）カラカッタからネパールの首府カトマンズに到着。その後、北西に進んで行くのですが、国境の警備が厳しくそれ以上進めなくなりまして。そのため、ネパールの村でまた足踏み状態。だけど、この方がすごいのが、この時間を利用してチベット仏教を学んだり、密航ルートに山岳地帯があるため登山の稽古にも取り組んだのです。

その情熱の結果、翌年ネパールとチベットの境にあるクン・ラ峠を越え、ついにチベット領内への密入国に成功したのです。説明が長くなりましたが（笑）、それぐらい凄い旅人の大先輩です！ そんな大先輩の「河口慧海」さんの生家跡が、この近くにあるので行ってみることにしました。ロータリーの逆側、駅の東側に出て商店街を過ぎ、環濠北側エリア内の住宅地に入ると堺市の観光案内表示があります。表示に従い住宅地を進むと「えっ・・・」、なんと家と家の間（正確に言えば家と家の前）に約1m x 50cmのスペースに石碑が建っていました（苦笑）。すぐに分かったから



築地の残念スポット「河口慧海生家跡」



江戸時代、修験道の道場だった寺小屋「清学院」。この机を使って河口慧海さんも学んだのだでしょうね。



七道駅高架下ロータリー前に「鉄砲鍛冶射撃場跡」の石碑がありました。この辺りで試し撃ちをしてたんですね。それに、2匹を引き連れ、峠を越える「河口慧海」像が隠れます！ 臨場感が凄くあるブロンズ像です。

よかったけど、これって俗に言う「残念スポット」でした（ごめんなさい）。
「残念スポット」の生家跡碑から二筋東には、「河口慧海」さんが子供の頃に勉強した寺小屋「清学院」がありました。なかなか風情のある町屋で「国の登録有形文化財」にもなっていて、内部は一〇〇円で見学できますよ。



「鉄砲鍛冶屋敷・井上関右衛門家住宅」。井上家は伊予大洲の出身で、徳川が豊臣と戦った「大坂の陣」の後に移住してきて成功した人らしい。

戦国時代、戦い方を学ばせた「鉄砲の町」、環濠北側エリアを散策
寺小屋「清学院」を出て東側真後ろの筋には、「鉄砲鍛冶屋敷・井上関右衛門家住宅」が江戸時代の姿で保存されています。その時代の姿で残っているのは全国でここだけのようです。
鉄砲の量産化を成功させた堺、その影には戦国武将「織田信長」がいたからだといまじしますよね、でも違うみたいですよ。ここ「鉄砲鍛冶屋敷」が繁栄したのは、家康の時代のようなです。でも展示物は貴重なものばかり、入館料は五〇〇円と規模の割に少し高いですが（すみません！）、火縄銃などは戦国マニア必見の歴史館です。「鉄砲鍛冶屋敷」には入館せず、そこから自転車約一分、江戸時代の参勤交代の道「紀州街道」出てきました。これからしばらく、環濠都市のど真ん中、南北に伸び路面電車が走る大通り「大道筋（紀州街道）」を進んで、次のエリアへと向かっていきます。

ソノビヨリ
びよりひ

To Sakai, a melting pot
that transcends time
2025
Nov. 3 day

「大道筋（紀州街道）」に向かう途中、何やら雰囲気の良い建物と「榎並屋勘左衛門 芝辻理右衛門屋敷跡」と書かれた石碑を発見。説明書きをよめば、この「芝辻理右衛門」さんは「大阪冬の陣（一六・一四年）」の前、「徳川家康」に二〇〇挺の鉄砲を急いで作れと命ぜられて、何とか間に合わし褒美をいただいた人みたいです。その邸宅がここだったようですね。この人が頑張ったおかげで豊臣家が滅亡したのでしょうかね。



「榎並屋勘左衛門 芝辻理右衛門屋敷跡」の通りは趣がある。



その前に「与謝野晶子」の歌碑「住の江や 和泉の街の七まちの 鐵治の音きく 菜の花の路」と何やら鉄を打つ箱のようにリズムカルな短歌が。

邸跡から二〇〇mほど進めば「紀州街道」が幅広の路「大道筋」になります。路面電車「阪堺電気軌道」の「綾之町」電停がある大通りです。ここ「綾之町」の交差点は、撮り鉄さんにとって堪らないポイントだと思えます（笑）。路線がカーブしていて、信号待ちをしていると自分に向かってくるような気分を味わえます、私は撮り鉄ではないですが。

しばらく車両待ちをしていたら、恐ろしく珍妙な販売機を発見！なんと「昆虫食自販機」・・・何虫を売っているのか怖くは近づき確認したら、カブトムシの甲虫系、タガメにサソリ、コオロギ、ワーム（ミミズ？）、昆虫ミックス！？。一番高いタランチュラ二九〇〇円・・・（絶句）、こんなもの誰が買うのだろう？よく見ると、カブトムシ、コオロギ、ワーム以外は全て売り切れ。さすがは「モノの始まり、なんでも堺」とよく言ったものだ、変なことで感心してしまいました（苦笑）。衝撃的な販売機を最後に「環濠北側エリア」から「東側エリア」に向かうことにいたします。

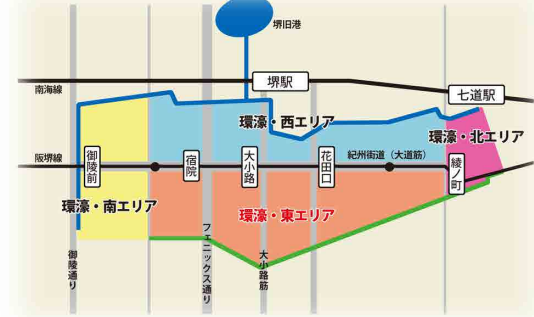


阪堺電気軌道「綾之町」電停前の交差点に佇む恐ろしき昆虫販売機。海外ならともかく日本では食べたくないなあ。

再度、紀州街道へ堺打刃物の街並みを楽しみ

環濠都市・東側エリアへ

奇妙な昆虫食販売機を見て口に苦いものが上がりつつも、「大道筋（紀州街道）」を進み一筋目を東に折れば、すぐに国の重要文化財「山口家住宅」です。この木造建築は一六・一五年（慶長二〇年）の「大坂の陣」後に建てられたもので、江戸時代初期の町家としては貴重な建造物だそうです。二〇〇円の入館料で、伝統的な堺の町家の暮らしを感じることができます。時間がある方は入館をお勧めします。お勧めしておいてなんなのですが、私はスルーして先に進みます（時間がないので・残念）。



国の重要文化財「山口家住宅」を後に、再び「紀州街道（大道筋）」に戻り先に向かう。路面電車がある「紀州街道（大道筋）」は環濠都市（堺旧市街）を南北に伸び片側三車線の大道で、東西に走る「宿院通り（フェニックス通り）」と共に環濠都市の幹線道路。先に対戦末期一九四五年（昭和二〇年）の五度による空襲で旧市街の半分以上が焦土と化したそうで、その後の戦後復興の都市開発でこの道ができたようです。



国の重要文化財「山口家住宅」

「紀州街道（大道筋）」付近には、奇跡的に焼け残った建屋が現存して（少数だけど）散策していても飽きずに楽しいです。堺の名産・包丁屋などがその建屋を使い営業もしていますよ、また、堺市では「まちなみ修景補助制度」を用いて古い建屋を再生保存を推進して頑張っているようです。だから、メインの道から外れて民家街に迷い込んでも（笑）、意外に古い町屋や古刹を発見することができますね。これも堺観光の楽しみの一つかもしれません！



改修中の「本願寺別院」（2025年10月現在）



改修前の「本願寺別院」山門

堺市が「県」だったこと！知っていましたか！？

「紀州街道（大道筋）」をさらに南に進めば、堺の老舗お茶っ葉屋さんの「茶寮つぼ市製茶本舗 堺本館」が見えてきます（お茶休憩にオススメです）。その角を東に折れると「分も自転車走れば、ナマコ壁が目に入る、その横に「堺県庁跡」の「本願寺別院」があります・・・なんと！只今、堺市指定有形文化財の山門の土塀が補修中で覆いがあり景観を楽しむことができない・・・（残念です）。

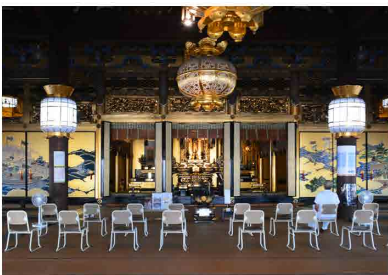
山門横の石碑も半分隠れている、その石碑に「堺県庁跡」と刻まれているのになあ。だけど、みなさんこの「堺県」って知っていましたか？私はうつすらと記憶の片隅にありましたが、詳しく知らずに訪れています（苦笑）。ちょっとググって調べると、一八六八年（明治元年）に旧天領地（徳川氏の領）に設置された県で、その後の一八六九年（明治二年）廢藩置県から一八七六年（明治九年）までに「河内、狭山、伯太、岸和田、吉見、丹南、奈良県」を併せ持った、近畿地方の大きな県だったみたいです（びっくりです）。そして、県設置約四年後の一八七一年（明治四年）、堺市内で最大の木造建築である「本願寺別院」に県庁を移転させたのですね。境内に入れば立派なプロンズの「蓮如」さんと「親鸞」さんの像が迎えてくれます。その奥には大きな本堂があり「自由に参拝ください」と書かれていた、さすがは開かれた教えの浄土真宗だとい



山門をくぐれば、境内に佇む蓮如像。この旅はプロンズ像によく会います（笑）。



「本堂」の「与謝野晶子」石碑



堺市指定有形文化財の「本堂」。お一人いらっしゃいました！



蓮如像に向かうように立つ親鸞像

感心です。本堂横には幼稚園が併設されていて、元気な歌声が聞こえ華やかな気分を味わえました（笑）！ここにもあった！「与謝野晶子」の歌碑が。歌碑には「劫初より作りいとなむ 殿堂に われも黄金の釘 ひとつ打つ」と、意味を解くなら、『仏教においてのこの世の始まりから創作・創造された文学（芸術）の殿堂に、私も黄金の釘を一つ打ちます』かな（笑）。「与謝野晶子」が生まれた時代、ここは堺県庁だったでしょうね。一八八一年（明治一四年）に堺県は廃県となり大阪府に合併されました。

ソノひびヨリ

次号予告 (2026年1月~3月)

連載

ソノひびヨリ

第四二話 大阪府堺市 その3・その4
古代、中世、幕末、近代のメルティングポット堺へ



大阪府堺市・大仙公園 おおさか堺パルーン

第四三話 沖縄県八重山郡
Vol.20記念 八重山紀行・西表島その他



沖縄県石垣市・離島橋 具志堅川高像

昭和ガラタノスタルジー
家のじゃまけモノ

昭和家電、キーホルダーその他



還暦前、写真家の「写して候・寄って候」
天皇御陵踏破の旅 外伝編



飯豊天皇陵 (奈良県葛城市)

日本酒紀行 一合一肴
一四六献目から

世界拳闘紀行 第一六話



特集 mofmof 推し歩き
プチモフ動物探訪行ってみたZOO~

※記事内容は一部変更になる可能性があります。

編集後記

師走に入り「あつ！」という間に今年も暮れようとしています。今年はなんとか四号分を作る事ができました。これも皆様と同志諸君のおかげです。ありがとうございます。次号が記念すべき「〇号」になり、最近またで問題になっている「オパーリウム」のことを記事にしようとした矢先！我が国初、女性総理の一言で沈黙化した。この事で業績を上げてしまおう観光業者もあるかもしれませんが、インバウンドに頼らずとも国内需要でおおまか補えるようです。京都のある観光業者さんなどは、国内旅行者が増えたので嬉しいと語っていました。何事もバランスですね、外国人旅行者と国内旅行者！来年も旅行業協会が肩上がりなことを期待しています。

そんな希望を持ちながら、辛いこともありますが・・・一月二日に熊本県阿蘇地方阿蘇山のM五・八の地震、青森県沖震源のM七・五の地震。この場を借りて被災された方にお見舞い申しあげます。今後も余震（後震）にお気を付けください。避難生活を余儀なくされている方は不自由な暮らしが続きますが希望を捨てずに新しい年を迎えて欲しいと願っています。

それでは次号の予告を。旅行記では、今後の続き「大阪府堺市・環濠都市の旅」と「〇号記念企画・八重山諸島の旅」をお送りする予定です。

「天皇御陵全踏破の旅・外伝」は日本初、女帝と伝説が残る「飯豊天皇陵」へ、「日本酒紀行・一合一肴」は「酒造がさらに美味い季節」になってきた、全部道府県制覇まであと五県！と「いつてい」る「家のじゃまけモノ」では昭和の家電製品が出てきたよって喜んでいて（じゃまけモノじゃ、ないのか？と聞きたくなる・笑）。『世界拳闘紀行』のコビトロックくんは、相変わらず私生活が多忙のようだ（「やまんなかタヌキ」さんには、冬眠しないでくださいとお願いをしたところ、まあ、そんなこんなで来年もよろしくお願いたします。良い年末年始をお過ごしください！

編集部・同



日蓮宗の広徳山・妙国寺、朱色が派手派手しい。



妙徳寺の裏に土壇より高く伸びる「オハク蘇鉄」を見え！天然記念物の蘇鉄かは分からないですが（笑）。

戦国時代の逸話、幕末の大事業と話題が多いお寺へ。次に向かったのが、戦国時代、幕末と深い繋がりのある場所へ。自転車でも二分もかからずに目的地に到着予定、いつも徒歩なので自転車の便利さをつくつく実感します。ただ、見落としては注意！この時も、目的地の少し前の古い石標を見落としかけた。『右そてつ』と刻まれている石標を。堺で蘇鉄と言えは歴史好きの方ならすぐに分かりますね、『織田信長』で有名な「鳴きの蘇鉄」です、その蘇鉄が生育する「広徳山 妙国寺」のことです。



「右 そてつ」の石標と、なんと簡潔な案内の言葉（笑）。



妙徳寺の山門近くの前に「明治戊辰戦土州藩士墓」の石碑。側面に「左 とさのさむらいはらきりのはか」と記されています！



妙徳寺側から見た宝珠寺園幼稚園

「存知だと思いましたが、一応簡単に説明をしておきましょう。この「蘇鉄」が信長の命により安土に移されたのです、ところが毎夜毎夜堺に帰りたい、堺に帰りたいと泣き続けたことで信長が激怒。『蘇鉄』は切られそうになるのだけど、九死に一生を得て堺に無事帰ることができました、ある意味「お化け蘇鉄」がここに生育しているのです。その「蘇鉄」は、なんと！国指定の天然記念物で推定樹齢一〇〇〇年、やはり「お化け蘇鉄」なのです。この「お化け蘇鉄」を見たい方は、拝観料・大人四〇〇円をお支払いください。

更に、戦国（安土桃山）時代の話として、明智光秀の「本能寺の変」の夜、ここ「妙国寺」で「徳川家康」が泊まっていたそうです。何かと戦国（安土桃山）時代にゆかりのあるお寺なのです。そして幕末、堺で国際問題の大事業が起きたのです！そうです「堺事件」ですね。時は一八六八年（慶応四年）、堺港に上陸してきたフランス帝国水兵が民・婦女子に狼藉をふるまっていた。その行為を阻止しようと、幕府の命を受け堺を警固していた土佐藩士が銃撃、その結果、フランス帝国水兵二名を殺害してしまったのです・・・。



10数年前に訪問時には、這貝がなかったので六基確認できました。



門前の側面から撮影道員の後に土佐藩士の墓石二基が見えました。

環濠東側エリアより、西へ進み堺の偉人たちの生家跡を目指そうと思います。そろそろお昼が近い堺の名物でも頂こうと、自転車走らし環濠東側エリアを後にします！まだまだ続く「環濠都市・堺」の旅が。